

この素晴らしきありふれていない闇の魔王獣は成り上がることができるのか？

あるアルミン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

みんなのアイドルマガタノゾーアたそが異世界で大暴れ!!  
内容はめんどいから見たほうが早い!!

# 目次

第1話 「リアル異世界転移はクソ」

1

第2話 「持ち味を生かせ」 ————— 5

第3話 「俺だけ取り残されたのはマイ

ナーだからでしょうか？」 ————— 13

第4話 「暇だから野良の魔物達に玉乗り

仕込んでたら魔王きた」 ————— 23

第5話 「ソレは紛れもなく奴さ〜」

34



# 第1話 「リアル異世界転移はクソ」

あー、うぜえ……………リア充死ねばいいのに……………ん？

え？カメラ回ってる!!？えまじ!!ええ、あくあく→あく←ゴホンツ、

俺の名は片野 藤矢（カタノ トウヤ）身長190cm 体重70キロ

特技は影が薄いことだぜ（サムズアップ）

身長が190もあるのに影が薄いつてどうゆう事だよ、つて思うかもしれないがま、  
気にすんな！

ハア、なんでこんなことしてんだろ……机の上で頬杖ついて死んだ魚の目でなんか騒  
がしい場所を見る。

あ？何があるかって？リア充どもがきやつきやつしてんだよ、南雲の奴は白崎さんと  
イチャイチャ、それに天ノ河 光輝つつうクソイケメン死ねやろうと委員長みたいな  
性格の八重樫 雫（変換めんどい）と後名前忘れちゃったくんの3人が絡んでんの、

ハッ!!リア充してんなあ、クソが、見ろよ光輝の奴なんか、え?なに?キラ加工でもしてんの?つてくらいキラキラしてんよ、ラノベの主人公が貴様は、

そして南雲、テメエも美女に世話してもらってエロゲの主人公かッ!!リ○か!!○トなんかつ!!

ああ、みんな死ねばいいのに、え?おれ?俺はね、この十何年一度も当てられたことない男ですから、

写真に写っても俺だけボケますから、へへ、へへへ、

……………みんな(´▽` ) 氏に晒さないかな?

神よ、この世の全てのリア充を地獄と天国の狭間、煉獄より来たる魔竜の炎によって焼き尽くしてくれ給う!!いあいあクトウルフブグタン、いあいああああああああああああああ……………

そして異世界召喚された。

え？ひと？あ、エヒトか、紛らわしい名前しやがって。つまりは俺たちは戦争の人員補充として働けど、

働いたら負けだと思っうんですよ（キリッ、

「ふざけないでくださいなんちゃらこんちゃら」（この会話はオリ主がこう聞こえているだけです。なので会話の部分は本編を参考にお願ひします）

おお、我らが偉大なる愛ちゃん先生よ、我々生徒のために反論してくれるなんて……  
なんて、教員の鏡なんだ。（涙）

「しかし現状では貴方方に変える方法うんぬん」

イシユタルもなんか帰れない的なこと言っただけど、絶対帰す気無いじゃん、イシユタルってあれでしょ？ギルガメツシユの唯一友のエルキドウ殺した神の名前じゃなかつたっけ？

名前からして怪しいよ、

「皆んなカクカクシカジカ……………」

えー、光輝の奴が戦うとかぬかしとるう。戦うのお？まじデエ？働きたく無いでござるう、こいつ頭沸いてんじやねえのか？今まで戦争のせの時も知らん俺らになにができるって言うんですか!!

あれだ、去年の臨海学校で鶏のシメ殺しの体験で俺以外吐いてた奴らがイキッてる。え？その後美味しくいただきましたわ。皆んな部屋戻ってたけど。

しかし、異世界召喚、異世界転生の次にロマン溢れるオタクの夢、俺もいつか異世界行ったら農家やるんだって息巻いてた時期があったな、

飯もうまいし、いやあ、もうこれ帰らなくてもいいんじゃないやね？うちの母ちゃん放置主義だし。



## 第2話 「持ち味を生かせ」

さて、今日は何やら力を見るためにステータスプレートなるRPGでよくあるあれを渡してくれた。平均は知らんがなんか100が最高値らしい、へー、99じゃ無いのね。まずは針で指をさして、イテエな、それをステータスプレートに垂らす、んで、ステータスオープンって言えば見れるみたい。

「アーティファクトってのはあれこれ」

あー、なるほ、つまりオーバーツミたいなもんか、物質複製系のアーティファクトとかいいな、欲しいなあ、

「ステータスは日々の鍛錬うんぬん」

経験値稼ぎか、メタストラとかいらないかな？ いないよな、俺のステータスは？



耐久力：硬い

MP：∞

技能：闇 邪神

知られざる者

光の天敵

ニヤルの贈り物

闇の眷属

星の捕食者

水源の侵食者

土塊に変える者

アザトースの加護

光への憎しみ

闇への昇格

魔力感知

超能

力感知

言語理解

石化の魔眼

君の未来なき絶望へ祝福をwww byニヤルラトホテブ

|||||

おい、早速ぶつ壊れてんぞ、早速ぶつ壊れてんぞ、外の宇宙のヤベーやつ介入受けてるぞ、後、チートすぎ!!てか俺未来ないの!!?

まずステータスの技能の確認を、

闇 概念魔法

全ては闇から生まれ闇へ帰る。この世のあらゆるもの

を闇へと帰す。闇は不定形で自在に操れる。闇はあなたであなたは闇

つまり即死攻撃

光の天敵　　光を持つものつまり生命全てに有利になれる

ニヤルの贈り物

やあ、新たな闇の誕生を祝おう、これは僕からの選抜だ、

第4の壁を認識できる

その他、ヤベエ能力ナウ

え？しかも見せに行ったら

「なんだこりゃ？何語だ??？」

なんて言われる始末でやんす。それに別の魔王獣の能力までなぜか会得しているし、まあ、馬鹿にしてきた奴の顔面に汚水をぶっかけてやったけど。

まず俺ができる事は、

闇を操れる、闇は変幻自在でしかも当たれば即死、闇がある限り魔力無限

汚水を放てる。ちよろちよろからハイドロカノンまで自由自在

大地を揺らし地割れを起こし断層を作り出しビームを打てる

良く皆んなから忘れられる

おうおう、ふーん、チートじゃん、てか闇が万能すぎるんだけど。これはあれですわ、異世界チートで俺T U e e e e e 展開やるんだろ!!ニヤルからの贈り物とアザトースの加護がめっちゃ怖いけど、

後、なんかリア充や主人公的なやつ見るとこう殺意が湧いてくる、ぶっ殺しテエって思うんすわ。そう思うと闇の力ふつつふつと湧いてくる!!

へへ、今の俺なら全てを変えられそうだけぜ(ゲス顔

とりあえず対戦相手の教官をぶん殴つとくか、歯を潰した剣を持って真正面から突っ込んでくるってかあ? 甘いんだよおく!!

これがクロスカウンターじゃあアアアアア  
!!!!

メキョツ!!あ、やばい音した。

え?これ大丈夫!!?完全にグロッキーなんだけど!!え!やば……………散ツ!!

ふう、いやー強敵でしたねえ、いや顔面殴られたくらいで倒れる奴の方が悪い（責任  
 転換

あの後、光輝に色々言われてキレてキンテキをくらわせた俺は悪くないはず。

これで俺も一番下の南雲の次くらい扱いになっちゃった（てへぺろ

やだ、俺のカースト低すぎ（戦慄

でもまあ最近になって皆んなからも認知されてきたしモーマントイ（☒ω☒）

あれだ、前に子供とお爺ちゃんにガンつけて誰だったかに土下座させてたDQNどもの顔面とネオアームストロングサイクロンジェットアームストロング砲を潰してやった時も次の日そいつらに謝りに行ったら何故かそいつら性別変わってたし俺の事も記憶してなかったし。

こう思うと結構異常なんだよな、影が薄いつていうか、あれだ前の世界でも俺のスキルの《知られざる者》発動してたんかな？

ちなみに《知られざる者は》簡単に言えばめだかボツクスのめちやでかいあの人、なんだっけ、あの先代の生徒会長の、あの、ほら、あの人的な感じでだな。

まあいいや、多分そんな感じ。まあ、アレや、公衆の面前で裸踊りしても次の日には忘れ去られてるみたいな感じよ、つまりマイナーになるんだな、これが……………

って誰がマイナーじゃ!!俺だつてな出番さえあればオーブクロニクルでも後のシ



はあはあはあ、失礼、熱もrゲフンゲフンお見苦しいところを見せてしまいました、とりあえず、この作品が有名になればワンチャンあるかもしれないんで、作者には頑張つて貰おうと思います。

グフフ、出番、人気、グッツ、売れる、トレンド、新規アニメ、グフフフフ



第3話 「俺だけ取り残されたのはマイナーだからでしようか？」

あれから2週間がキングクリムゾン!!

みんなして頑張ってるよ、俺はみんなが頑張ってるのをバーガー的な食べながら見てる。星野捕食者のせいで腹が減るんだから仕方がない。

光ああ、変換めんどい！勘違い野郎がそれを見てつかつかってくるのをキンテキで黙らせる。すると身長でかい君が絡んでくるからそいつにもキンテキくらわせてオーケー  
(コマンドー風)

その二人を雫が抱えてお互いにプーリンと言いながらサムズアップ、男二人を両肩に抱えて(一人は190ある)去って行く。

「おい、片野く「ウルセエ死ね!!」プゲラッ!!」

こんな風に近づいてくる奴の顔を殴ったりしてる、でも明日にはこいつらまた絡んでくる。俺より人気のある奴をぶっ殺したいです。

聞く話によると魔人族には強力な亜人族の助っ人がいて魔王と恐れられているらしい。亜人族なのに光の魔力を操り全てを破壊すると、

へ、何が魔王じゃ、こちとら魔王で邪神つつう最恐ハイブリットだつつうの、さて、ツレションされかけてる南雲とバカ3人のど真ん中を通りつつう3人に恐ろしく早い鼻フックデストロイヤーをしながら王宮内をうろつく。

エヒトの絵に落書きして食糧倉庫へ向かう。落書きはまあ、あれだどぐる巻きうんぴー書いたりエヒトらしき人物に鼻毛とか目に画鋏とか刺したりした。

あと色々とアーティファクトパクったりしてる、死ぬまで借りてるんだよ。明日あたり遠征に行くらしいけど、原作見る限りじゃ、俺は大丈夫だろ。

皆さんこんばんは今現在夜の大体1時くらいです。南雲君の隣ですが今、白装束で藁人形に釘を打ってまーす。取り出したラジカセからハコの呪いかけてまーす。

アソーレコンコン、コンコン、釘をさくす♪リア充みんな死ぬくばいいのくに♪  
あ、コンコン、コンコン、ブウツコロオス〜♪人気、ある奴みなごろお〜し〜♪

HEY! HEY! HEY!

ハイ！念じて呪って、祟っちゃやうよせえいっばい

イエーイ!!なんか途中から別のに変わったけどそんなの関係ねえ!!

なってきたぜこのビート!!ハイテンションにぶっさすぜ!!

リア充撲殺ワンヒット!!ツーヒット!!スリーヒット!!

よっしやこの姿で脅かしたらぜ!!

とりあえず香織さんのことストーカーしてるやろうに全速力で追っかけ回す。

ヒヤッハーツ  
!!!!

その夜、白装束で頭にロウソクを指して左手に藁人形と右手にムジヨルニアみたいなハンマーを持った幽霊が壁を突き破って入ってきたり、床が忍者屋敷のアレみたいに出てきたり、変態的な動きで反復横跳びしてるのに何故かコツチに向かってくるという奇怪な動きで追いかけられたらしい。

と言うわけでなんとか大迷宮へやってきました。みんな頑張ってますねえ、ヌルフフ、俺もこの新技、どこからともなく触手でヌルヌルと、

ええ、私の出番は今までありません。何が悪かったのでしょうか。だから腹いせに後ろの方でピアノでBGMひいたら、聞いてください、フリージア。

「ねえ雫、」

「どうしたの香織」

「あのさ、片野君ってあんな性格だっけ?」

片野 藤矢、龍太郎君と同じくらい大きいクラスメイトで影が薄い、しかし、トー

タスに来てから明らかにおかしくなってるような。

というかもう既におかしいような、キボオノハナアー♪

「元からあんな感じじゃなかった？」

ツナイダキズウナオー♪

「ええと、片野だったか、お前の出番だ」

ゑッ!!? 出番!!? …… ああ、お前もやれと、

でかいうさぎが現れた、でかいゴリラAが現れた、でかいゴリラBが現れた、

おや、おやおやおやあ? どうやら震えてるようじゃありませんか?

「ゴリラ2匹にうさぎが1匹か、ゴリラもうさぎもよくモンスターに使われるもんな、ゴリラはカードスリーブになるしうさぎは仮面のライダーになってるしな、そうかそうか、よし

殺そう」

皆さんこんにちは、僕は南雲　ハジメです。笑顔は最大の威嚇とはよく言ったものです。

片野君は龍太郎君くらいのサイズでクラスじゃ目立たない人だった。影が薄いと言うか存在自体が薄いと言うか、

「ゴリア南雲お!! テメエ誰が出番か薄いじゃゴルアツ!!!」

ええ!!?心を読めるの!!?

「心を読んでるんじゃないやねえ、字を読んでるんだよ」

ええ、(困惑)

まったく、誰が出番、永遠の0だ、

怒りで口から闇がおもらひしちまったじゃねえか。想像してみろ、身長190の男が口から黒い煙を吐き漏らしながらニコニコと笑ってる状況をよお。

変態じゃねえか。ついでに触手も振り回しとくぜ。へへ、

口から漏れる闇からS A N値が削れそうな鳴き声が聞こえる。闇から這い出てくるは悪しき翼、

その名も闇の眷属

マガゾイガー

シビトゾイガーぐらいのサイズしかないと、見た目はゾンビのようなゾイガーで大量に生み出す事が出来る。さあ、お前たちやっておしまい!!

俺は後ろで太鼓とフルートを冒瀆的に鳴らしてるから。

ここからは戦闘風景をごらんあれ。

闇から現れたマガゾイガーが6体、それはゾイガーの力強さとシビトゾイガーのグロテスクさを混ぜ合わせ、そして甘い匂いが辺りに漂う。

一体が翼を広げたかと思うととんでもない速度でうさぎのモンスターに襲いかかる。その手をうさぎの口に突っ込み顎を引き裂く。

他の5体がゴリラ2匹の首元に牙を突き立てる。するとどうだろうか、4体の体がボコボコと膨らみついには爆発四散してしまった。

うえ、グロ……何人か吐きそうなのがいるし。うさぎの相手してた奴はうさぎを三枚におろしてバリバリ食ってる。

食い終わると俺の方に歩いてきて闇の中に消えた。



「お、おう、よくやったな………」

ええいつ!! ドン引くなどん引くな!! だいたい予想はしてたわ!!!

みんないいよなあ、勘違い野郎なんてチーム出せるんだぜチーム、裏山マジ裏山  
エクスカリバアアアアアッ!! て叫ぶんだろ? いいよなあ、目立てる奴わよお、

あ、ゴリラがエクスカリバーの餌食になった。よし俺もやっちゃうZOY♪

ゴリラに向かって全力ダッシュ!! それにビビって体を丸めるゴリラに足を大きく振りかぶってボール(ゴリラ)を相手のゴール(ゴリラ)にシューッ!!

超エキサイティンググッ!!

ゴリラは死んだ!! もういないッ!! だが、今も俺の心の中で忘れるまで生き続けるッ!!!!  
と思う!!

お、あれが噂のトラップ鉱石か、アレを触ると強制ルーラだっけ、よくもまあ崩れた壁を登れるよ、猿か?

登ってる名前忘れちゃった君に水鉄砲程度の水圧の汚水をピュー、と横らへんに当たる。

ほれほれ、避けないと臭くなるぞwww.

あ、辿り着いた、

なんとか君が鉱石に触ると魔法陣が地面に展開され、光と共に、

俺だけ残してみんな転移した。いやなんで!!?

## 第4話 「暇だから野良の魔物達に玉乗り仕込んでたら魔王きた」

おいおい、もしかして魔法陣にも反応しないほど出番薄いんすか？みんな向こうでベヒモスと戦ってるんだろうな、

俺？俺は今、魔物に玉乗り仕込んでる。某有名アニメのOPみたいにヒツカルくもをつきぬうけえフライアウエ〜♪

はあ、にしても暇だ、王様んとこからパクった複製できるアーティファクトも使い道ねえしな。ん？終わった？なら火の輪くぐり移っていいよ。

あ、ツイッター来てる。新ウルトラマン？タロウのむすこお？最近息子ネタ多いな。ウルトラの父も大変だ。

あ、帰ってきた。

「片野君!!どうしてここに?」

俺だけ残されたんでスウ〜、嫌味か!!?嫌味なのか!!?お前影薄いなあ、存在感薄いな、

出番ないなツ、てか!! 嫌味か!!

「片野君!! 君と言う奴はツ!!! 君が居てくれれば、南雲君が死ぬ事は……………」

ねえ話聞いてた? 勘違い野郎、俺はさ、俺だつて行きたかつたよ、一人だけ取り残されたこつちの身にもなれよ。見るよ、お前らが向こうに行つてる間にこいつらは従順になつちやつてまあ。

お前たち魔物のプライドはどこ行つた? ほらほら、もう帰つていいよ、オツカレサマシター

「魔物に芸を仕込む奴があるか!!……………まあいいさつさところから出るぞ!!」

え? 出るの? まあ、出るのはいいんだけどさ。

誰か来てるぞ。

天井が爆発してなんか落ちてきた。

「なんてこった……………あいつらはまさか!!?」

何!!知っているのか雷電!!!

「アレは神代の頃に生きていたと言う伝説の魔物、ダークナイトケルベロスに死天鳥、そして、魔人族に手を貸す巫人……………魔王!!」

マオウ?なに?負けイベ?

「魔王　　マガゼットン!!」

ショートヘアーに赤いクリスタル、や☆つ☆か☆!!

「ええ、はい、あの時ですか?団長の言っていた魔王の姿を見たときのことですよ?片

「野君が、はい、そうですね、アレはもう怒りを通り越して憎悪のようなものだったと思います。」

片野君が魔王を見た瞬間、でした、こう、迷宮内が恐れをなして震えているような、ええ、本人ですか？そうですね、あの時、私はチラッと見たんですが、

なんというか、こう、見てはならないもの？みたいな生物が知覚してはいけない存在というか、ええ、口から黒い煙のようなものを吐き出してたんです。

はい、深淵というか宇宙というか、とにかく『闇』としか表現できないようなものを吐き出して、

その時です、魔王が話しかけたのは。

「ここにいたんだ。マガタノゾア……………」

「ヨウ、テメエダツタカア……………マガゼットン」

「私たちのところに来て、一緒に人間どもを……………」  
「腑抜ケタナア」何…」

「マアイイサ、テメエヲブチノメセルナラナア、ココデアツタガ100年目ヨ」

闇の中から出てきた片野君はアンモナイトの甲羅のようなものを背負い、額からは赤いクリスタルが、肩からはハサミのような腕が2本伸びて無数の触手が蠢いていました。

見るだけで精神が汚染されるような、逆らうことの出来ない絶対的死を感じました。

「テメエラゼットン一族ヲブチノメシテえ!!俺ノ運命ニピリオドヲ打ツテヤルゼ!!!」

「無理、マガタノゾーアには私は倒せない、それにこれからも出番は無いから」

「誰ノ出番ガ無イツタテエエツツ!!!」

『ピコン!スキル『嫉妬の炎』を会得しました。スキル『マガタノゾーアの闇』を入手しました。スキル『バーサーサー化』を取得しました。』

説明しよう!!嫉妬の炎とは出番のない、影の薄い、存在感皆無な片野が宿敵を目にす

る事で発現し負の感情が高まるたびに強くなるというスキルである。同時にマガタノゾーアの闇はこれまでのマガタノゾーアの嫉妬、妬み、つらみ、などを貯めるスキルで嫉妬の炎の言わばバンクである。

そしてバーサー化は文字通り、バーサーカーと化するスキルである。

飛び出しましたのはもちろん我らがマガタノゾーア!! 3メートルの跳躍だ!! ダイスの目は? 3クリ!! 続いてマーシャルアーツだ!! 初期値1しかないこれを!! おおっと!! 1!! 1クリを出したッ!! そのままキックを繰り返すこれもクリティカル成功!! 凄まじい!!

狙うはマガゼットンの綺麗な顔に一直線!! さすがマガタノゾーア汚い!! これは汚い!! 擬人化で露出した部分にマガキックを叩き込むつもりだ!! 足が赤く光って唸る!!

しかしマガゼットン、これをレポートで躲す!! おおっと、勇者一行はこのスキに部屋から脱出!! 二人を止めようとする勘違い野郎に腹パンして黙らせサムライガールそれを背負って脱出!!

マガゼットン、光の光弾を次々と連射、しかしマガタノゾーア、一切当たらない、これはどうした事だ!!?



「乱数調整だツ!!」

マガタノゾーアの技能『アザトースの加護』だ!!この世界のデバックは全てマガタノゾーアが支配した!!乱数による命中率の変動!!回避率100%!!これは勝負あったか!!いやツ!まだまだ!!マガゼットン!!力技でそれを突破してきた!!流れるような空中三連コンボから壁ハメ!!

アッパーカット↓空中二連蹴り↓ブーストタツクル↓掴みキャンセル↓で壁に貼り付けて、小キツクでハメル。

300回ほど繰り返した後、マガタノゾーアが反撃、壁ハメを利用して壁すり抜け、それをマガゼットン、壁をパンチで碎きながら追いかける。マガタノゾーア後ろに後退していく。

そして、出口も入り口もない空間にたどり着く、煌びやかな鉱石が大量に生えている。だがそれもこの2人には関係なく全て破壊して粉々に碎かれる。

「光の速度でけられたことはある?」



ゴオオオオオオツ!!!!!!  
突如、岩と自身の体が浮遊感を覚える。

「お？おおお？」

ゆつくりと浮き上がるそれは徐々に横へと回転している。それは風の動き、竜巻のような……………

そう、マガゼットンを中心に巨大な竜巻が発生していた。風はだんだんと強くなり、中の岩はズタズタに切り裂かれボロボロになってしまう。

「コーンニャーローツ!!!」

岩に触手を巻きつけて必死にしがみ付く。風は徐々に熱を帯び始める。やがて灼熱の竜巻に飲み込まれるマガタノゾーア、やがて空間内の全てのものが溶け空中に浮遊するマガゼットンの真下が赤くドロドロに溶けた流体で満たされる頃に、

一つの黒い卵状の物体が転がっていた。



吐いたゲロが地面の熱で蒸発しその匂いで吐く無限ループに突入しました。

## 第5話 「ソレは紛れもなく奴さ〜」

あー吐いた吐いた、もう腹ん中がスカスカや、今はマガゼットンとなんかいた魔物の肉を焼いて食ってる。原作じゃめっちゃ痛いらしいけどもはこの肉体は人間のものでは無い。

俺は人間をやめるぞおおお!!! ジョジョオオオオオオ!!!

え? 自己紹介パート入んの!!? 今更?

「我が名はマガタノゾーア!! 本名片野 藤矢、地球出身!! 夢はニュージエネレーシヨ  
ンクロニクルを乗っ取って我が野望の礎とし、将来的にマガタノゾーアの名をマルチ  
バースに轟かせること」

「クソザコナメクジ以下のマガタノゾーアには無理、私の名はマガゼットン、本名は  
フィーネ、フィーネ・ルーチエス、亜人族の突然変異種、将来の夢はあらゆる存在が私  
にひれ伏す世界を作り上げること」

さて……………ネタがないんだなあ、怪獣だから。マガゾ。

「私は生まれた時から強大な魔力を持っていた。そして、星を喰らう光の魔王の記憶を持っていた。夢の中でいずれ対をなす闇の魔王がこの世に現れる、その時、共に世界に混沌を齎せと、その為に炎の魔王と風の魔王の力を与えられた、その時から私は亜人である事を捨て、あなたを探していた」

するとなんでえ、あんさんはわいがこの世界にくることお、知ったたんか？そんで俺のここに来たと、成る程、運命なら仕方ない。

親に今日から人間やめるて異世界で邪神やりますつてメール打つといた。

さあ、俺たちの冒険はここからだ!!完。

ねえねえ終わると思つた？終わると思つた？ねえねえ!!終わると思つた？ねえ今どんな気持ち？今どんな気持ち？WRRRYYYYYYYYY

!!!!

!!!!!!!

「マガタノゾーアはそんなことばっかやってるから出番ないんだよ」

―会心の一撃―

マガタノゾーアは9999のダメージを受けた。マガタノゾーアの心の傷が広がった。マガタノゾーアの闇が9999増えた。

「グフツ、…カスタム……………お前…（血がダラダラ）ピンポイントで傷口に岩塩塗ってくるなし……………俺じゃなかったら死んでたZ E ♪グボア!!!」

神は言っている、ここで死ぬ定めだと、死んでたまるかああアアアア!!!俺は俺は俺だ俺は俺が俺、生きるツ!!!生きて出番をもらおうツ!!!だからまだ死ぬ訳にはいかないんだああああ!!!

「死の淵より帰ってきた男!!マガタノゾーアツ!!」

チャラツチャツチャラ、チャツチャ!!あれは誰だ!誰だ!!誰だ!!!アレはマガタ!マガタ!!マガタノゾーア!!!

嫌われ者の名を受けて、出番を捨てて戦う男♪マガタノナイフは敵を斬り、マガタ



ノアローはぶつ刺さる、マガタノフォールは突き落とし、マガタノサンダー熱光線!!

魔王の力、身に付けた、悪うのおとおこ、マガタノ! マガタノ!! ♪

ふう、さあて紹介パートも終わったし、こつからどうすつかなあ、マガゼットンはなんか俺に肩車されてるし。

「なんだっけ? 2ヶ月以上も経過したように感じるけどまあ、作者のゴーガやナメゴン並みの執筆スピードじゃ是非も無いよね?」

「何言ってるの、マガタノゾア?」

そうそう俺たちはなんかよくわからない神様をぶつ殺す為に世界を股にかけるスーパーな冒険を繰りひろげようとしてる訳だ。

あれ? なんか違うような? ま、いっか♪

「と言うわけですな、うちらもアイキャンフライして見ようと思うですよ」

「何が思うとですなのか全く分からないんだけど」

どうせ戻つても行方不明扱いだろうし、と言うか既に忘れ去られてる気がするし、

「やっぱ魔王といたら勇者の妨害とかするもんだろお？え？さつきと言つてることが違う？……………俺は過去は振り向かない主義なんだ」

さあ、俺たちの朝へアイキャンフライ！俺の出番は？暗ーい！ブルブルブルやべえ風圧ががが、